

## 経済財政政策部局の動き 満足度・生活の質に関する調査④

# コロナ下における社会との つながりと満足度

政策統括官(経済社会システム担当)付  
参事官(総括担当)付  
畠山 優香\*

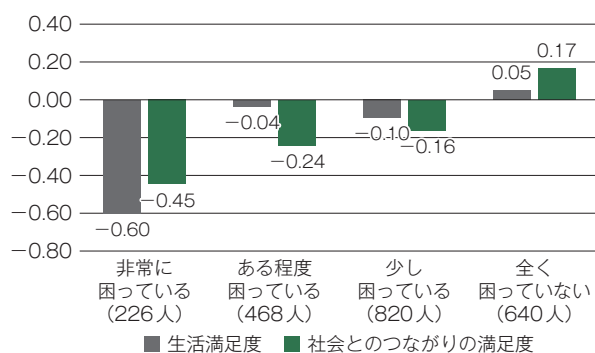
## はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため外出等が抑制され、人々の暮らしに大きな影響を与えた。本稿では、外出等自粛に伴う、友人等との交流頻度やSNS<sup>1</sup>利用状況の変化と満足度の関係について、内閣府が2021年に実施した「第3回満足度・生活の質に関する調査」より、第2回同調査からの継続サンプルによって得られた示唆の一部を紹介したい。

## 友人・知人との交流の減少と満足度の関係

2020年調査時点と比較して21年時点で友人等との交流<sup>2</sup>の頻度が減少した者は37.0%おり、増加した者の22.2%を大きく上回った。また、友人・知人との交流減少に困っていると回答した者<sup>3</sup>の割合はいずれの年齢層においても半数近く、特に若年層(15-39歳)では57.4%と過半数が困難を感じていた。交流減少に困難を感じている者は、困っていない者と比較して、全体的な生活満足度(総合主観満足度)及び社会とのつながりの満足度<sup>4</sup>が大きく低下していることが分かった(図表1)。

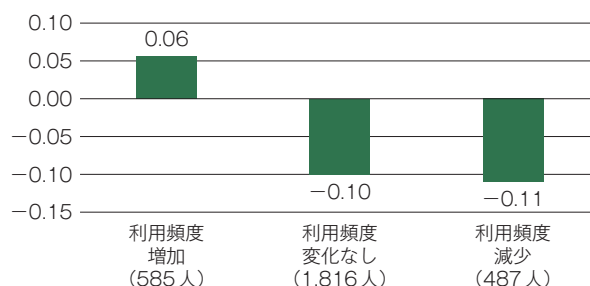
図表1 友人・知人との交流減少と満足度の変化幅



## SNSの利用と満足度の関係

実体との交流を補う形としてSNSが注目されているが、同調査では高齢者層(65-89歳)においてSNS利用が高まっていることが分かった。高齢者層では「SNS上の交流者数が減少した者(13.9%)」を「交流者数が増加した者(23.7%)」が上回り、高齢者層においてSNSの利用が拡大していることが窺えた。また、SNS利用頻度が減少した者の割合については年齢層による差はほとんど見られなかったが、頻度が増加した者の割合については、元々SNS利用頻度が高い若年層では15.7%だったのに対し高齢者層では24.3%と、10%pt近く高かった。コロナ下では帰省を自粛する者も多く、離れて暮らす親族とのやり取りの手段としてSNSの利用が増加した可能性などが考えられる。こうした中で、高齢者層においては対面での交流がSNSの利用に置き換わり、結果として頻度が増加したと推察される。SNS利用と満足度の関係について見ると、20年調査時点と比較してSNS利用頻度が増加した者は社会とのつながりの満足度が上昇した一方で、利用頻度が増加しなかった者は同満足度が低下したことが分かった(図表2)。

図表2 SNS利用頻度の変化別  
社会とのつながりの満足度の変化幅



## おわりに

友人等との交流の減少は、生活満足度と社会とのつながりの満足度の双方を減少させることが分かった。しかし、SNS利用が外出自粛に伴う対面交流の減少を補い、社会とのつながりの満足度の向上に一定程度有用である可能性は示唆された。SNS利用には世代間のばらつきがあることに加え、SNSにも様々な種類があることから、今回の調査結果をもって「SNSの利用がWell-beingの向上につながる」と一概に言うことはできない。人々の満足度の向上につながるコミュニケーションの在り方については、引き続き調査を行い、検証していくことが重要である。

畠山 優香 (はたけやま ひろか)

\* 青森県庁より内閣府に派遣

1 ソーシャルネットワーキングサービス (Social Networking Service) の略。Facebook、Twitter、LINEなど。

2 実際に会ったり直接連絡を取り合ったりすることをいう。

3 友人・知人との交流が減ったことについて「非常に困っている」「ある程度困っている」「少し困っている」と回答した者。

4 分野別主観満足度の一つ。ほかにも仕事と生活(ワークライフバランス)、健康状態などがある。